

プレゼンテーションへのコメント

アンドリュースライマン

(宇都宮大学国際学部准教授、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター員)

本日はありがとうございました。今日のプレゼンテーションは素晴らしかったです。皆さんからたくさん大事な情報を得ることができました。たくさん勉強になりました。

このプロジェクトの時に私が発表しました3つのキーワードの最初の **information** (情報)、例えば、SNS やスムーズなコミュニケーション、言語の問題などがありました。2番目の **facilities**、例えば ATM やコンビニエンスストア、トイレなどの問題も考えたほうがいいと思います。3番目の **accessibility**、例えばバリアフリー、ベビーカーや車椅子、ほかにツアーガイドや地図、レンタサイクルなども大事なポイントだと思います。あとは、日光や栗山でのお客様の良い **experience** (体験、経験) も大事だと思います。本当にありがとうございました。

バーバラモリソン

(宇都宮大学国際学部准教授、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター員)

急にたくさん発表するのは難しいと思いますが、私の場合から見ると、一番大事なところは若者たちです。グループ D によると、国際と地域連携と一緒にというのはやはり若者の協力が非常に大事だと思います。つまり地域では若者は仕事が非常に大事です。お金ですね。もし若者と一緒に参加できるように何かやっつけようとするのが一番大事だと思います。

そしてライマン先生もおっしゃったように、情報も大事だと思います。若者であれば携帯電話で、1日で栗山の情報や魅力を調べられるので、若者に聞けばすぐに出てくると思います。グループ E でも言っていた、案内場所が無いということには、私も驚きました。若者が働いていて、言語(外国語)も自然に口から出てくる機会もあり、SNS も若者が担当になれば、もっと生産的な方向に向き合うことができると思いました。ありがとうございました。

佐藤正人 (日光市観光部観光交流課長、日光市国際交流協会事務局長)

日光市観光交流課長の佐藤と申します。よろしくお願いたします。始めに、宇都宮大学の皆様には12月の2回にわたるフィールドワークで大変お世話になりました。御礼申し上げます。また、今日は大変素晴らしいプレゼンテーションでたくさんの提言をしていただき、本当にありがとうございます。聞いていてメモを取っていましたが、物凄 quantity でなかなか追いつきませんでした。先ほどの先生方のコメントでいくつかいただいた課題、例えば、メニューや看板の多言語化、そして東照宮のバリアフリー化は私どもの方にも苦情ではありませんが、お話はいただいております。

冬の誘客については、どうしても冬の日光市は観光客が減ってしまうということですが、

各地域で特色あるイベントが行われているので、宣伝の不足というお話もあったと思いますが、そうした部分が今後の課題であると考えております。

日光市では現在、観光振興計画というものがあり、その改訂版を作っております。宇都宮大学の田巻先生にご協力いただき、国際化基本計画というものを策定し、平成30年度から5年間の計画ということで、進めていく予定でございます。その中で挙がっている課題については、今日の発表で挙げた課題と共通する部分がありますので、今後の観光に活かしていけたらと思っております。今日は本当にありがとうございました。